

身近な鳥たちの観察（5月から11月）

～毎日朝夕、ベランダから～

浜松市立曳馬小学校

5年 小粥 暁斗

1 動機

ぼくは、小学校1年生のころから鳥が好きでバードウォッチングを趣味にしている。最近では、いろいろな場所で珍しい鳥を探ることが面白くなり、県外にもカメラを持って出かけている。

そんなとき、テレビで「家の周りにはスズメが多く見られてきたが、最近は少なくなってきた」と言っているのを聞いて、本当にそうなのかなと思った。そして、実は身近な鳥のことをよく知らないなと思った。だから、あらためて家の近くにいる鳥を観察して、どんな鳥が、どんな条件で見られるのかを調べることにした。

2 方法（研究の手順）

毎日、朝と夕方に鳥を観察して、天気や見た鳥の種類と数を記録し、鳥の写真を撮る。

観察する場所は、自分の家の二階のベランダにした。家の隣がお寺で、その庭に木がいっぱいあり、よく鳥を見かけるからだ。また、近くに川があって水鳥も見られる。そこで、家やお寺の庭、近くの電線、近所の屋根などに止まっている鳥や飛んでいる鳥をベランダから観察している。

3 目的ごとの研究方法と仮説

（1）スズメは少なくなっているのか？

他の鳥と数を比べてスズメが一番だったら、「人里で一番多いのはスズメ」と言える。その後で、昔のことを知っている野鳥の会の人にインタビューして、最近スズメが少なくなっているのかを教わる。

【仮説】いつも登下校で一番よく見かけているから、少なくなっていない。



（2）天気で鳥の数は変わるのか？

天気別に、種類ごと鳥の数を比べることで、晴れの日によく見られる鳥や、雨の日に見られる鳥がわかる。その鳥が晴れの時に多い理由を考えれば、その鳥は雨に弱いなどの特徴がわかると思う。

【仮説】雨だと羽がぬれて視界も悪くなるし、晴れはまぶしいので、くもりが一番多い。

（3）時間帯で鳥の数は変わるのか？

毎日、観察したいけど学校や習い事もあるので、毎日決まった時間に観察するために、朝起きて朝ご飯の前の10分間と学校から帰って習い事が始まる前の10分間に観察する。同じ天気や時期でも、朝と夕方で種類ごと鳥の数が違うかどうかを調べることで、朝に活動する鳥もわかる。

【仮説】朝、鳥の声で目が覚めることはあるが、夕方はあまりないので、朝の方が出やすい。

（4）時期によって見える鳥の数は変わるか？

10日間ごとで鳥の数（種類ごと）を比べて、特別の時期だけ多い（少ない）鳥を調べる。ツバメなどの渡り鳥もいるが、スズメなどの身近な鳥も季節で変化するのかを知りたい。

【仮説】渡り鳥以外にも、ヒナが巣立った後はその鳥の数が増えて、数が変わる。

4 研究の結果

(1) スズメは少なくなっているのか？

夏の自由研究では、5月から7月までの観察の結果をまとめた。全部で19種類、1482羽の鳥を見ることができた。スズメが観察できた鳥の24.0%で1位だった(表①)。

そして、野鳥の会の世話人である永山孝明さんと徳田英雄さんに聞いてみた。浜松市の永山さんは「スズメは減っているらしいけど、あまり感じない」と言っていた。磐田市の徳田さんは「ムクドリやヒヨドリは減っていないが、ツバメやスズメは、巣が作りにくくなっているので、減ってきた」と言っていた。昔の数ははっきりわからないので、少なくなったのかははっきりしないけど、ぼくの家で一番身近な鳥はスズメであり、仮説のとおりだった。

自由研究の後にも観察を続けた結果、10月中旬からムクドリが急に増えてきて、5月から11月までを合計したら、ムクドリが逆転して1位、スズメは2位になった(表②)。

スズメが減ったように感じるが、それでも大雨の日以外は毎日見ることができる。ただ、スズメはいつもいると思っただけで季節によって数が変わるのかもしれない。

【考察】

11月にムクドリに逆転されたが、スズメは観察できた鳥の中で2位だった。ぼくの調査結果と野鳥の会の人とのインタビューから、「昔よりも少なくなっている」とは言えない。

昔と比べて田んぼが減り、エサとなるお米がとれなくなったから、人里でスズメが減ってきたとテレビで言っていた。しかし、カマキリなどの虫をくわえているスズメも観察できた。お米だけでなく、虫を食べたりするので、今も人里にはスズメが多いのだと思う。

(2) 天気で鳥の数は変わるのか？

データを集めた結果、カラスやヒヨドリは晴れ・くもり・雨でも数がほとんど変わらないが、ムクドリ、スズメ、シジュウカラなどは雨のときは少なくなった。留鳥を体の大きい方から並べてみたら、大きな鳥は天気によって見られる数が、あまり変化しないことがわかった。

鳥の種類	大きさ	処	晴れ	雨
カラス	46~56cm	大	1.43	1.50
ヒヨドリ	28cm		1.97	1.50
ムクドリ	22cm	小	2.41	0.59
スズメ	15cm		1.78	1.22
シジュウカラ	12~14cm		0.37	0.09

【表③】天気ごとに見られた数の平均

なお、ツバメはくもりの日が多く見られた。「ツバメが低く飛ぶと雨が降る」と言われる。空気中に水分が多くなるとエサになる虫があまり飛ばなくなるため、低く飛んでエサをとるからだ。晴れた日は高く飛ぶので見つけにくいけど、くもりの日は低いので見つけやすかったのだと思う。

(3) 時間帯で鳥の数は変わるのか？

朝夕で見られる鳥の数は、朝が多い時期と夕方が多い時期があるが、全体ではあまり変わらない。しかし、鳥ごとに並べてみると、違いがあることがわかってきた。ほとんどの鳥は、夕方より朝の方が多く見られる。特に、カワラバト、メジロ、カワラヒワは朝の方が夕方よりも3倍以上多か

順位	鳥の種類	数	割合
1位	スズメ	355羽	24.0%
2位	ムクドリ	219羽	14.8%
3位	ツバメ	218羽	14.7%
4位	ヒヨドリ	214羽	14.4%
5位	カラス	190羽	12.8%

【表①】5~7月の観察結果

順位	鳥の種類	数	割合
1位	ムクドリ	539羽	17.7%
2位	スズメ	508羽	16.7%
3位	ヒヨドリ	503羽	16.5%
4位	カラス	450羽	14.8%
5位	ツバメ	230羽	7.6%

【表②】5~11月の観察結果

【考察】

鳥は胃袋が小さく、常にエサを探していないと空腹になってしまう。そのため、天気に関係なくいつも飛んでいる。ただし、種類によっては、天気の影響を受けやすい鳥、受けにくい鳥がいる。カラスやヒヨドリは体が大きくて体温を保ちやすいのかもしれない。逆に、スズメやシジュウカラなどは体が小さいので、寒さや雨に弱いのかもしい。

った。しかし、カラスだけが夕方に約2倍も多い。「夕焼け小焼け」の歌に「カラスと一緒に帰りましょう」という歌詞があるように、カラスは夕方の鳥のようだ。カラスは夜行性の鳥ではないので、観察する夕方の時間がカラスのねぐら入りの時間なのかもしれない。

夕方、浜松駅の近くにムクドリが群れを作っているというニュースをテレビで見てから、ムクドリも夕方の鳥だと思っていたけど、調べてみたら実は朝の方が多いことがわかって、びっくりした。

【考察】

天気と同じく、朝でも夕方でも、エサを探すために飛んでいるようだ。しかし、カラスが夕方に2倍も多く見られたり、カワラヒワやメジロが朝だけに多く見られたりしたので、鳥の種類によっては、朝に特に活動する鳥、夕方にまとまって飛ぶ鳥などがいるのだと思う。

(4) 時期によって見える鳥の数は変わるか？

渡り鳥の数が変わるのは予想していたが、今回の観察の結果では、留鳥であるスズメやムクドリの数も時期によってとても違っていた。留鳥は一年中、同じくらいの数が観察できると思っていたけど、スズメは6月には毎日3～6羽くらいを見ることができたが、7月下旬からは平均で1羽くらいになってしまった。ムクドリは7月や8月はほとんど見られなかったけど、10月中旬から増えて、11月上旬と中旬は平均6羽だった。このことは予想してなかったなので、驚いた。

【考察】

朝も夕方も、どの種類の鳥も7月下旬から9月下旬は見られる数が減った。これは、急に30度を超える真夏日が続くようになったから、日陰にかくれるようになってしまったからだと思う。野鳥の会の徳田さんも、「いつもは10種類くらい見られるのに、夏になると鳥の種類が6種類くらいに減るよ」と言っていた。

5 まとめ

研究前に見られると予想していた鳥は10種だったけど、自由研究のときに19種類、今は26種類の鳥を家の周りで観察することができている。予想以上の鳥が身近にいることがわかった。

自由研究は5月下旬から7月までのデータでまとめたが、暑くなってからの観察だったので、変化がわからない鳥もいた。その後も観察を続けて今回は11月の終わりまでをまとめた結果、夏にはわからなかった、天気ごと・時間ごと・時期ごとの鳥の違いが、少しだけわかってきた。一番驚いたのは、年間ずっと身近にいるはずの留鳥が、巣立ち以外にも時期によって変化したことだ。これについては、一年を通して四季の移り変わりや鳥の関係を調べてみたいと思っている。

6 感想、今後の課題

毎日、朝と夕方に観察するのは、雨の日や日差しがまぶしい日もあって、大変だったけど、だんだん鳥の好む時間や季節がわかってきて、楽しくなってきた。思っていたよりも多くの鳥が身近にいるとわかって、うれしかった。

ぼくの夢は鳥とコミュニケーションができるようになることだ。鳥は目が良いし、空も飛べるので、鳥とコミュニケーションができれば、海や山で行方不明になった人をカモメやタカに頼んで探してもらうこともできる。鳥の気持ちがわかれば、鳥が住みやすい環境をつくることもできる。人間と鳥が共存できたらいいと思う。



7 お世話になった人

- ・曳馬小学校の先生（小笠原秀通先生、西橋晴香先生）
- ・「日本野鳥の会・遠江支部」の皆さん（永山孝明さん、徳田英雄さん、山村京子さん）
- ・「静岡STEMアカデミー」の先生（大石隆示先生、仲村篤志先生、青木克顕先生）